



# The Baseline Nutritional Status Predicts Long-term Mortality in Patients Undergoing Endovascular Therapy

著者名	溝渕 景子
発行年	2020-01-17
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00032645">http://hdl.handle.net/10470/00032645</a>

# 主論文の要旨

The Baseline Nutritional Status Predicts Long-term Mortality in Patients  
Undergoing Endovascular Therapy

血管内治療を受けた下肢動脈疾患患者における栄養状態による予後評価

東京女子医科大学循環器内科学教室  
(指導：萩原 誠久 教授) ⑨  
溝渕 景子

Nutrients. 2019 Aug; 11(8):1745. に掲載

## 【要 旨】

目的：動脈硬化に伴う下肢動脈疾患(peripheral artery disease: PAD)の進行は低栄養状態と相関することが報告されている。本研究の目的は、栄養状態を簡便に評価できる Controlling Nutritional status (CONUT)スコアを用いて、血管内治療(Endovascular therapy: EVT)を受けた PAD 患者をリスク層別化し、予後予測における有用性を検討することである。方法：当院で EVT を受けた 628 例を CONUT スコアにより 4 群(Low-risk 群(CONUT 0 点, n=81)、Mild-risk 群(1-2 点, n=250)、Moderate-risk 群(3-4 点, n=169)、High-risk 群( $\geq 5$  点, n=128))に分類し、死亡率を比較した。結果：平均 828 日の観察期間において、カプランマイヤー曲線による分析では CONUT スコアの高い群ほど高い死亡率を認めた(Log-rank trend,  $p < 0.001$ )。Cox 比例ハザードモデルに基づく多変量解析を行うと、年齢、性別、慢性腎不全、低心機能および重症下肢虚血の有無等による背景調整後も CONUT スコアは独立して死亡率と相関することが判明した。結語：EVT を受けた PAD 患者において、治療時の CONUT スコアは長期の死亡率と関連していた。(581 字)